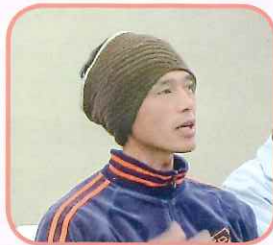


第65号 平成31年3月発行



## 若い農業者の力を京北の農業・農村に！ ～京北地域の将来を担う若い農業者～

右京区京北地域では、近年、地域外からの若い農業者の参加が増えており、それぞれが懸命に農業に取り組んでおられます。地元の若手農業者とともに将来の京北農業の担い手として期待されています。

今回、その若手農業者を対象に関係機関が協力して勉強会・交流会を企画したところ、多数の参加がありました。栽培作物や販売形態は様々ですが、打ち解けて楽しそうな雰囲気の中情報交換ができ、スマートフォンのアプリを使った今後の連絡などを約束する姿も見られました。

普及センターでは、今後も関係機関と連携をとりながら応援していきます。

# 京都乙訓地域 農業・農村の動き

## 伏見甘長とうがらしの産地支援

普及センターでは、平成30年度から取り組む重点計画「地域特産野菜の産地強化」において、伏見トウガラシを重点品目に取り上げ、産地強化に向けて力を入れています。

管内の主要なブランド出荷産地である右京区京北地域で、JA京都京北経済センターと連携して、「JA京都野菜部会京北支部青と部会」の活動を支援しています。

まず、モデル農家を選定し、モデルほ場での管理作業等の勉強会を6月と8月に開催し、より良い管理を呼びかけました。生産者はモデルほ場の栽培管理や排水対策等を見学できることにとても関心が高く、この勉強会での情報交換、意見交換は非常に有意義であったとの感想がありました。

また、台風等の被害に見舞われましたが、新しい殺菌剤の効果実証活動等により斑点細菌病を防ぐことができました。

モデル農家の経営試算も行いましたので、今後は、この試算をもとに新規生産者の呼びかけを行っていきます。



モデルほ場での勉強会



情報交換・意見交換を行う若手生産者



新殺菌剤の効果確認調査

## 大原の地域づくりの取組

左京区大原地域は、京都市北部に位置し、自然豊かな田園地域です。四季折々の美しい風景があり、また、三千院など観光資源も多く、観光客も大勢来られます。大原の振興を目指し、都市農村交流拠点施設の「里の駅大原」が平成20年に完成し、毎週日曜日の朝市は、野菜販売のテントが並び、生産者となじみの消費者や飲食店の仕入人たちが来られ、活気にあふれ、とても賑わっています。また、JAや市・普及センターなどが協力し、大原農産物品評会などを開催し地元の活性化に取り組まれています。

また、当地域でも農業の担い手不足や高齢化が進行していますが、一方で有機農業等を志向する若い就農者が近年増えており、地元農業者と共に組織づくりをすすめられ、平成30年度には大原有機農業研究会が32名で発足し、シンボルマークも「大原の美味しい野菜たち」に決定しました(右)。また、23名の方がエコファーマーの認定を受けられました。

普及センターでは大原有機農業研究会に対して勉強会や、小さな経営革新チャレンジ支援事業を活用した販売促進などを支援するとともに、大原の地域づくり活動を普及計画に位置づけ、支援しています。



品評会後の即売



里の駅大原



研究会のシンボルマーク決定

## 農業経営講座受講生OBの動き

普及センターで実施していた「農業経営講座」受講生が、昨年3月の商談会で商談を成立させ販路拡大に成功しました。

○「100分とうもろこし」(京都市南区：植松明彦氏)

朝収穫したてのトウモロコシをデパートの店員がほ場で受け取りに行き、収穫から100分以内に販売を開始するという、農家と市内のデパートが連携した企画が実現し、大変盛況でした。(平成30年7月)

○「新京野菜 京ラフラン」(京都市南区：伊原拓利氏)

京ラフランは京都大学と京都市が共同開発した野菜です。伊原氏は、この野菜に惚れ込み商談を成立させ市内のデパートでの販売に成功しました。(平成30年4月)また、他の野菜についてもデパートで販売できるようになりました。

普及センターでは、今後も農業経営講座のノウハウをもとに販売促進や販路拡大による経営向上を支援していきます。



## 生活研究グループ連絡協議会の充実した研修会

～乙訓地域生活研究グループ連絡協議会が開催担当となり、府連協南部地域研修会を開催！～

乙訓地域生活研究グループ連絡協議会(湯川美栄子会長 会員数：15名)は、京都府生活研究グループ連絡協議会南部地域研修会の開催担当となり、府南部のグループ員43名で兵庫県への先進地視察に行ってきました。

多可町の「マイスター工房八千代」では、兵庫県生活研究グループ連絡協議会会長でもある藤原施設長から、生活研究活動を母体として、巻き寿司の製造販売を主体に売上3億円近くまで発展した取組みについて信念のこもった説明を受けました。また、移動の車中ではお勧めレシピや活動状況の情報交換を活発に行いました。

参加された皆さんは、「リーダーの人生とパワフルな語りに元気をもらった」「感激した」「各地のグループの頑張りに触れて、心を動かされた」等の感想や励みを持ち帰られ、今後の地域活動に向けて有意義な研修会となりました。



施設長の熱弁に聞き入る皆さん

## 地域の農地を守っていけるよう夫婦で頑張ってます 上野 清美さん (右京区京北)

上野清美さんは、京都市京北で夫婦で農業経営をされています。夫の秀一さんが主に水稻を担当し、清美さんは野菜の担当です。

現在栽培されているのは、京都市が推奨している新京野菜（京ラフラン、京てまり、京唐菜など）や伝統野菜が中心で、JAや道の駅に出荷されています。品目が多いので、特に夏場は早朝から収穫、調製、出荷作業に大変忙しくされています。

また以前から農業を希望する人や研修生を受け入れ、多くの人を今までお世話してこられました。現在も12月に、援農隊として地域に来られた方が農業体験を希望され、上野さんのところで勉強中です。これまでも、研修後に就農した人もあり若手農業者の育成に一役買っておられます。

高齢化して地域の農地を耕作する人が減少の一途ですが、これからも地域を守るために頑張っていきたいと話しておられます。



## 平成30年度 京都府農山漁村伝承優秀技能認定（農の匠）の紹介

たづる たかし  
田鶴 隆司さん (京都市北区)



三百余年の歴史がある「てこ」の原理を利用した本漬け方法「天秤押し」と、炭火を使用し30～40℃に保った室（むろ）で乳酸発酵を促す唯一無二の「すぐき漬け」の伝統製法を守り現代に伝えておられます。

ももた ひろし  
百田 宏さん (京都市山科区)



トマト養液栽培の草分け的存在で、ロックウール栽培等、現在普及している多くの技術を独自の創意工夫により応用・改良を行うとともに、種苗メーカーの品種開発に生産者の立場から助言を行うなど、全国トップクラスの技能を有しておられます。

はやし たねお  
林 種男さん (京都市伏見区)



京の伝統野菜「九条ねぎ」の生産にセル成型苗育苗、全自動ネギ洗浄機などを導入し大幅な省力化を実現、露地周年栽培体系を確立するとともに、年間を通じた安定出荷につなげておられます。

## 今年度認定された農業士さん よろしくお願ひします

お世話になります

<指導農業士>

<青年農業士>



南野 裕司さん  
(京都市北区)



岸本 亮則さん  
(京都市北区)



田中 良大さん  
(京都市山科区)

## 退任される農業士さん 大変お世話になりました

<指導農業士> 池田 徳治さん (京都市北区)  
村山 睦さん (京都市右京区)

<女性農業士> 上野久美栄さん (京都市右京区)

<青年農業士> 森田 晃司さん (京都市北区)  
西岡 伸晃さん (京都市山科区)

発行 京都府京都乙訓農業改良普及センター

〒615-0846 京都市右京区西京極徳大寺団子田町15 TEL 075-315-2906 FAX 075-315-2909  
mail : kyoto-nokai@pref.kyoto.lg.jp HP : <http://www.pref.kyoto.jp/kyootokuni-f/index.html>



QRコード